普通科改革支援事業
指定校事例発表

福岡県立八幡高等学校

令和 6年 9月 26日 (木)

Topic

1. 学校の基本情報
2. 新学科における特色ある教育内容
3. 新学科設置に際しての工夫・苦労
4. 指定終了後の取組継続について

1.学校の基本情報

＊学校名　福岡県立八幡高等学校

＊生徒数　1学年7クラス＝280名　全学年＝840名

＊教員数　66名(うち非常勤講師10名)

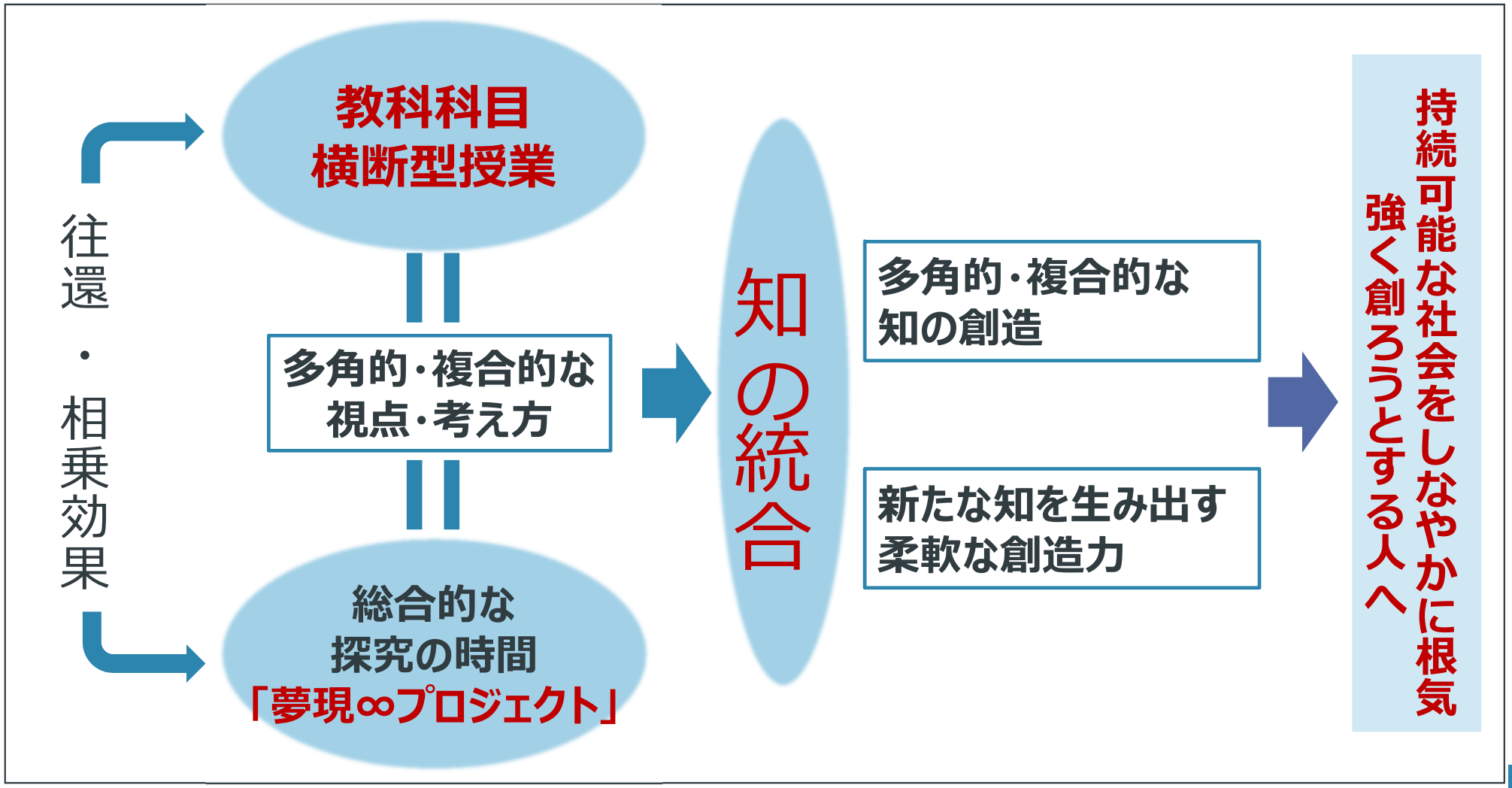
＊新学科名　文理共創科(７クラスのうち5クラス(200人))

＊新学科の特色

①文理横断的な学び【教科科目横断型授業】

②探究活動【夢現∞プロジェクト】

2.新学科における特色ある教育内容＝ホンモノの教育



＊学校設定教科の新設

教科	科目	1	2		3	
		共通	人文 社会学系	自然 科学系	人文 社会学系	自然 科学系
知の統合	知の探究				1	1
	知の追究	1	1	1	1	1
総合的な探究の時間		1	1	1		

＊学校設定教科「知の統合」

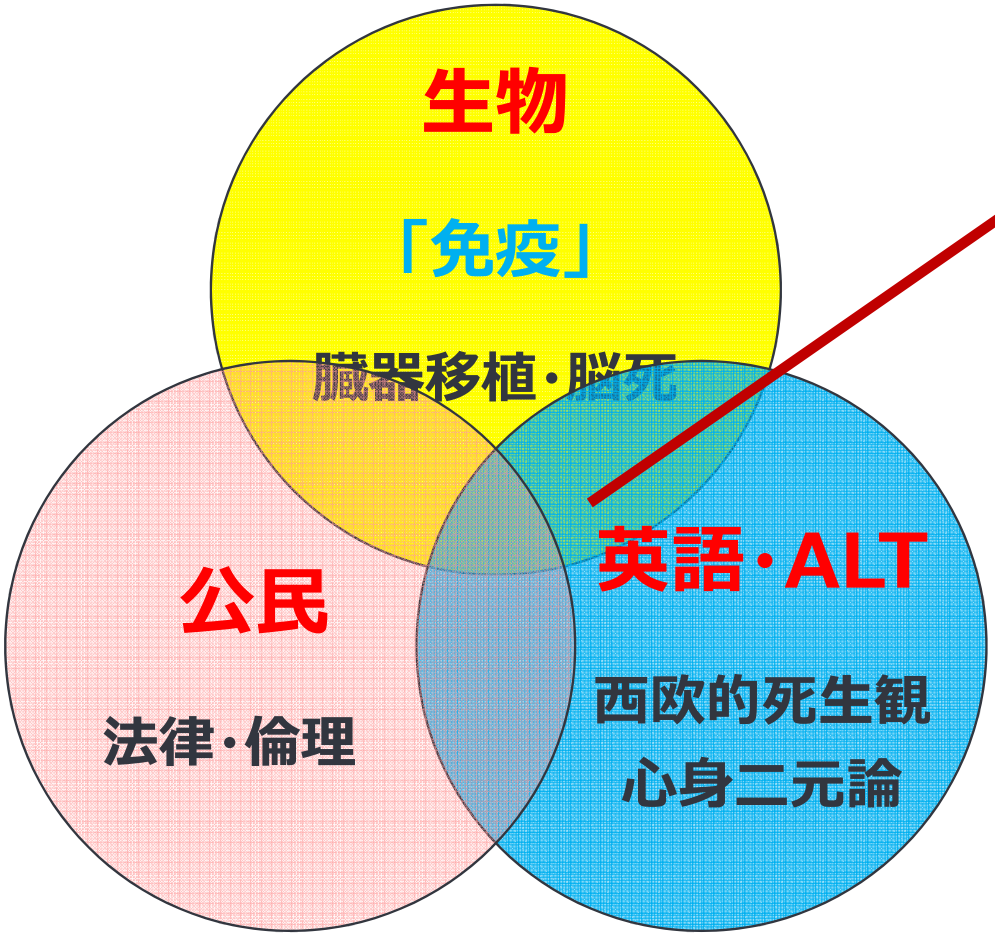
学校設定科目「知の追究」

・**教科科目横断型授業**を通して、学問と社会との繋がりや学びの意義を感得させる。
・各学年で1単位履修（年間35時間実施）

学校設定科目「知の探究」

・学問領域を統合してアプローチする際の手段となる情報活用能力を育成
・3年次に1単位履修(令和6年度普通科から先行実施)

＊教科科目横断型授業～知識から知恵を創造する学力の育成



日本人の死生観

生と死の科学性・社会性

学校での学びが、自分たちの生きている現実世界と繋がっていることの実感

多角的なアプローチによる、現代医療の全体像の理解と、医療の在り方の探究の契機

＊R6 年間実施計画

		3組	4組	5組	6組	7組
1学期	5月23日　(木)	①	②	③	④	⑤
	6月5日　(水)	②	③	④	⑤	①
	6月14日　(金)	③	④	⑤	①	②
	7月2日　(火)	④	⑤	①	②	③
	7月8日　(月)	⑤	①	②	③	④
2学期	9月30日　(月)	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	10月17日　(木)	⑦	⑧	⑨	⑩	⑥
	10月29日　(火)	⑧	⑨	⑩	⑥	⑦
	11月6日　(水)	⑨	⑩	⑥	⑦	⑧
	11月15日　(金)	⑩	⑥	⑦	⑧	⑨

＊R6 授業テーマ一覧

			(主)	(副)	(テーマ)
1年	1学期	①	国	英	ことばと文化
		②	数	国	数学オリンピックと源氏物語
		③	英	社	What is a refugee?
		④	体	数	バスケットボールの上達を数学的にみる
		⑤	家	理	被服素材　～科学的に観察しよう～
	2学期	⑥	国	体	社会問題と健康
		⑦	数	英	日本と外国の数学へのアプローチの違い
		⑧	英	理	How can we promote sustainability?
		⑨	理	国	「君たちはどう生きるか？」から紐解く科学史
		⑩	社	数	八高坂と地獄坂

＊評価ルーブリック(自己評価)(　　)学期自己評価

	A	B	C
知識・技能	複数の教科・科目の融合を通して、各教科・科目で習得した知識・技能を相互に関連づけ、さらに学問と社会の繋がりを理解できた。	複数の教科・科目の融合を通して、各教科・科目で習得した知識・技能を相互に関連づけ、学問と社会との繋がりに気づいた。	複数の教科・科目の融合を通して、各教科・科目で習得した知識・技能を相互に関連づけることができなかった。
思考・判断・表現	現実社会に即した分野に対して学問領域を統合してアプローチし、多角的・複合的に捉え、論理的に考察し、表現することができた。	複数の教科・科目の融合を通して、物事を多角的・複合的に捉え、論理的に考察し、表現しようとした。	複数の教科・科目の融合を通して、学問と社会の繋がりを理解できなかった。
主体的に学習に取り組む態度	複数の教科・科目の融合を通して、自分自身や社会の課題を発見し、解決策について調べたり考えたりした。	複数の教科・科目の融合を通して、自分自身や社会に課題があることに気づき、その解決策について調べたり考えたりしようとした。	複数の教科・科目の融合を通して、学問の面白さを分かろうとしなかった。

振り返り（学期を振り返って感じたこと、考えたことを書きましょう）

＊評価ルーブリック(レポート評価)

レポート評価

年度末に提出されたレポートは、以下のルーブリックに従って評価します。

	A	B	C
知識・技能	複数の教科・科目の融合を通して習得した知識・技能を相互に関連づけ、さらに学問と社会の繋がりを理解できている。	複数の教科・科目の融合を通して習得した知識・技能を相互に関連づけることができている。	複数の教科・科目の融合を通して習得した知識・技能を相互に関連づけることができていない。
思考・判断・表現	現実社会に即した分野に対して学問領域を統合してアプローチし、多角的・複合的に捉え、論理的に考察し、表現することができている。	複数の教科・科目の融合を通して、学問と社会の繋がりを理解できている。	複数の教科・科目の融合を通して、学問と社会の繋がりを理解できていない。
主体的に学習に取り組む態度	複数の教科・科目の融合を通して、自分自身や社会の課題を発見し、解決しようとする姿勢を持っている。	複数の教科・科目の融合を通して、学問の面白さを実感できている。	学習した内容に関して、実社会や実生活との関わりを見いだそうとしていない。

＊総合的な探究の時間「夢現∞プロジェクト」

第1段階(4-6月)

・課題設定
・研究計画書作成
・フィールドワーク

第2段階(7-10月)

・調査研究
・探究ガイダンス
・アクションプラン実行

第3段階(11-1月)

・選考会
・成果発表会

第4段階(2-3月)

・レポート作成
・1年生交流会

＊評価ルーブリック

評価項目 得点	①課題の設定	②情報の収集・蓄積	③整理・分析・まとめ	④表現
5	課題設定とその理由が明確であり、当事者意識をもった上で解決に向けて仮説を立て、研究を進めている。	課題解決に必要な情報を、目的に応じた手段を選択して収集・蓄積し、根拠のあるデータとして提示している。	得られた情報を正確に分析し、課題解決に有効なアクションプランを提示した上で、その考察と今後の展望について述べている。	適切な図表等を用いてスライドを作成し、研究内容を論理的に説明している。質問の内容を理解し、適切に受け答えしている。
4	課題設定とその理由が明確であり、解決に向けて仮説を立て、研究を進めている。	課題解決に必要な情報を、目的に応じた手段を選択して収集・蓄積し、データとして提示している。	得られた情報を分析し、アクションプランを提示した上で、その考察と今後の展望について述べている。	図表等を用いてスライドを作成し、研究内容を論理的に説明している。質問の内容を理解し、受け答えしている。
3	課題設定が明確であり、解決に向けて仮説を立て、研究を進めている。	課題解決に必要な情報を収集・蓄積し、データとして提示している。	得られた情報を分析し、アクションプランを提示している。	図表等を用いてスライドを作成し、研究内容を説明している。質問に対して受け答えしている。
2	課題設定が明確であり、解決に向けて研究を進めている。	情報を収集・蓄積し、データとして提示している。	アクションプランを提示している。	図表等を用いてスライドを作成し、研究内容を説明している。質問に対して受け答えしようと努力している。
八高 オクタゴン	② 課題発見力 ④ 論理的思考力 ⑧ 自己肯定力	① 情報収集力 ⑧ 自己肯定力	④ 論理的思考力 ⑥ 実行力 ⑧ 自己肯定力	⑤ 連携力 ⑦ 表現・発信力 ⑧ 自己肯定力

＊フィードバックの工夫

【探究ガイダンスで】
大学や研究機関の
先生方と

【活動の中で】
コンソーシアムの
先生方と

【発表会で】
関わってくださった
先生や地域の方と

＊探究活動における生徒の成長

質問	生徒の回答(同一生徒)
①1年間の探究活動の中で、想定外だった出来事(うまくいかなかったこと)を記入してください。 また、それをどのように乗り越えましたか。	始めは「いじめをなくしたい」という目標で複数の小学校でアクションプランを行うつもりだったが、デリケートな問題だったので小学生にアンケートを行うことができず、うまく行かなかった。 だから、そもそもの目標である「いじめをなくしたい」から「明るい言葉を増やす」という目標にして、T小学校で明るい言葉を増やすアクションプランを行った。
②その出来事から、あなたは何を学びましたか。	大きすぎる問題を解決するためには、身近な問題に落とし込んで考えることが大切であることを学んだ。 また、視点や考え方を変えることで、同じ問題でも新たな方法を導き出せたり、新しい発見ができたりすることを学んだ。
③学んだことを、今後、どのような場面で、どう活かせると思いますか。	進路を決めるときに、はじめから色々な選択を削るのではなく、別の視点から考えて、自分の好きなこと、自分が得意なことを生かした進路の実現を果たせるようにしたい。

令和5年度末実施 生徒向けアンケートより抜粋

3.新学科設置に際しての工夫・苦労

工夫（成果）

○教員全員での中学校訪問等、広報活動の実施。

○高校CNの配置(常勤)。産学官の連携強化。

苦労（課題）

○新学科における進路指導、探究と進路の結びつけ。

○高校CNの継続的な配置。

＊高校CNの活動と教員との連携

1.普通科改革支援事業に関する業務

＊運営指導委員・コンソーシアムの企画・運営
　運営に係る連絡調整、議事録作成
＊公開授業の企画・運営支援
　運営に係る連絡調整、書類作成
＊校外発表会等への参加調整
　他校実践の情報収集、校内共有
＊生徒・教職員に対するアンケートの実施・支援
　高校魅力化評価システムを用いて実施
＊先進校視察による情報収集
＊その他必要文書作成
　普通科改革支援事業に係る提出書類等

2.総合的な探究の時間に関する業務

＊企画・運営支援
　年間計画・評価方法の策定支援
　実施要項・指導案・教材作成補助、提案
＊生徒伴走
　探究活動の伴走(助言・サポート)
　生徒提出物管理
＊協力連携機関との連絡調整
　活動協力依頼、当日運営
＊教育活動の情報発信(HP)
＊外部人材・資源の発掘
＊外部資金の獲得支援

4.指定終了後の取組継続について

取組継続にかかる費用確保（先進校視察等に要する旅費）

・県立学校の特色化・魅力化に資する目的で以前から実施している「特色ある学校づくり調査研究事業」を活用

コーディネーター人件費確保

・高校標準法による加配数を活用できるか庁内関係課と協議中

4.指定終了後の取組継続について（つづき）

コンソーシアム維持

・今年度から、コンソーシアム会議の開催に係る旅費及び謝金については学校の運営費から支出するよう指示

自治体予算でのハード整備実績等

・自治体予算でのハード整備実績等はなし
・「令和６年度高等学校ＤＸ加速化推進事業（ＤＸハイスクール）」の採択校として、取組に必要な環境を整備